

国宝になる「更級日記」  
千年前から超有名だった  
「さらしなの里」

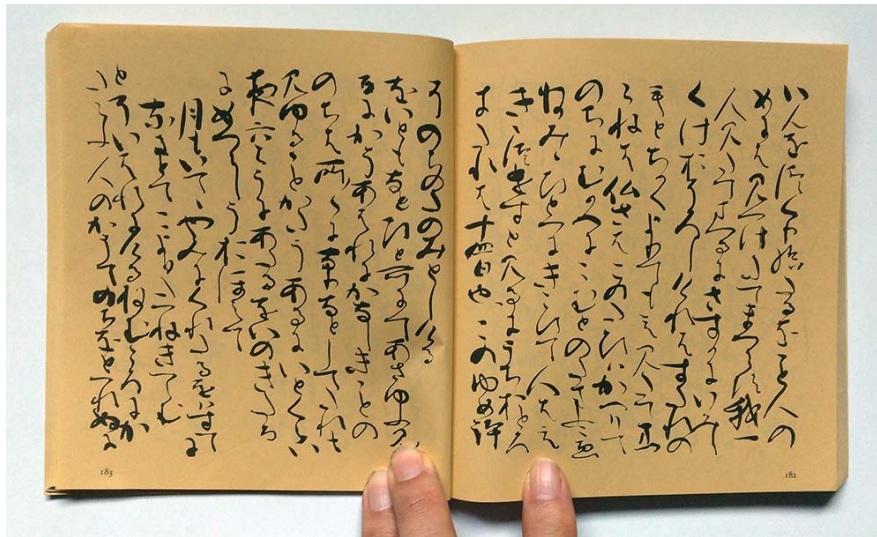
2023年7月19日 羽尾5区老盛会  
さらしなルネサンス さらしな堂  
大谷善邦

- 1, 国宝になる「更級日記」
- 2, 京都御所の天皇の住まいにある「更科の里」
- 3, 秀吉がライバル視した「さらしなの月」
- 4, 「さらしな」が都人のあこがれになった理由

## 1, 国宝になる「更級日記」



- 平安時代の受領菅原孝標の娘（すがわらのたかすえのむすめ）の回想録。父親の任地上総国（現在の千葉県市原市）から京都に帰る旅の道中を少女のままなざしで振り返り、晩年の暮らしや思いを綴る。娘は1008年誕生、回想録をまとめたのは50歳をすぎたから
- 左は小倉百人一首を作った藤原定家が書き写したもの。2023年夏、国宝に指定



### 「御物 更級日記 藤原定家筆」

編者 橋本不美男 発行 笠間書院

## NHK 歴史秘話ヒストリア

2019年6月12日 本放送



## 天皇家の宝物「更級日記」



- たて約16匁、よこ約15匁。藤原定家の子孫の冷泉家から江戸時代の後西天皇に献上された可能性。現在は宮内庁三の丸尚蔵館に収蔵
- 「更級日記錯簡考」の口絵。外箱、中箱、内箱と三重の箱入り
- 更級日記の右、金属の錠のついた桐の箱で、その上にあるのが中箱。内箱は日記が立て掛けてある後ろ、三日月の模様がほどこした青海波に浮かぶように描かれている。三日月は銀色

「更級日記」は  
おそはの  
「更科」と  
同じ意味  
信州の地名  
です

さらしな  
これが  
更級日記♡

それで  
そんなこんなを  
「日記」に  
まとめることに  
しました！

清水康代  
平安時代の元祖  
更級日記

「更級日記」  
平安時代の元祖  
オタク女子の日記」  
2014年11月発行

ラストに出てくる  
自作の歌  
「月も出でて  
闇にくれたる姨捨に  
なにとて今宵  
たづね来つらむ」

この「姨捨山」が  
あるのが  
長野県の  
「さらしな」  
地方

ちなみに  
わたしの父方の  
ご先祖には  
学問の神様  
菅原道真公が  
いらして

藤原冬嗣  
菅原道真  
高視  
雅規

## 藤原定家 (ふじわらのていか、さだいえ)

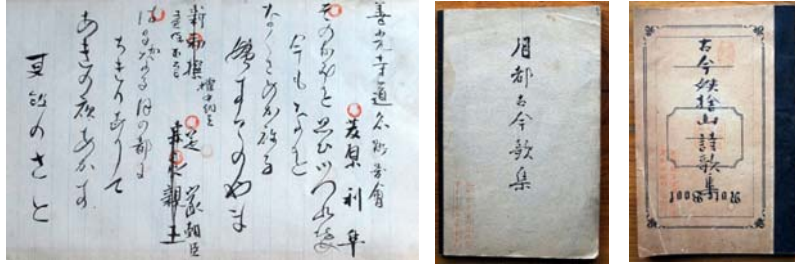


鎌倉時代初期の歌人  
新古今和歌集選者  
百人一首考案者

「更級日記」書写 = 69歳  
(資料：和歌と俳句でたどる  
「月の都」歴史年表)

はるかなる月の都に契りありて  
秋の夜明かすさらしなの里

更級村初代村長の「月の都」  
塚田雅文（襲名・小右衛門）



- 君が代に月の都と言ふべきはこの更級の姨捨の山 塚田小右衛門
- 久方の月の都は信濃なる冠着山の峯にこそあれ 塚田小右衛門
- 今よりは人に誇らんにしへの月の都の月を見つれば 大和田建樹
- 久方の月の都を人とはば雲の上なる冠着の山 佐藤寛
- いにしえの月の都を人とはば雲井にちかき姨捨の山 大島浮名
- 仰ぎ見れば羽衣干してなり光り月の都の冠着の山 藤野静輝
- 更級の月の都に来てみれば名にも勝ると猶おもひけむ 交野時万
- この舟をあがれば月の都かな 水野竜孫
- 佛や月の都はゆきのはる 宮本虎杖 (1783)
- 旅なれや月の都に月の秋 鳴立庵雄啄 (1836)

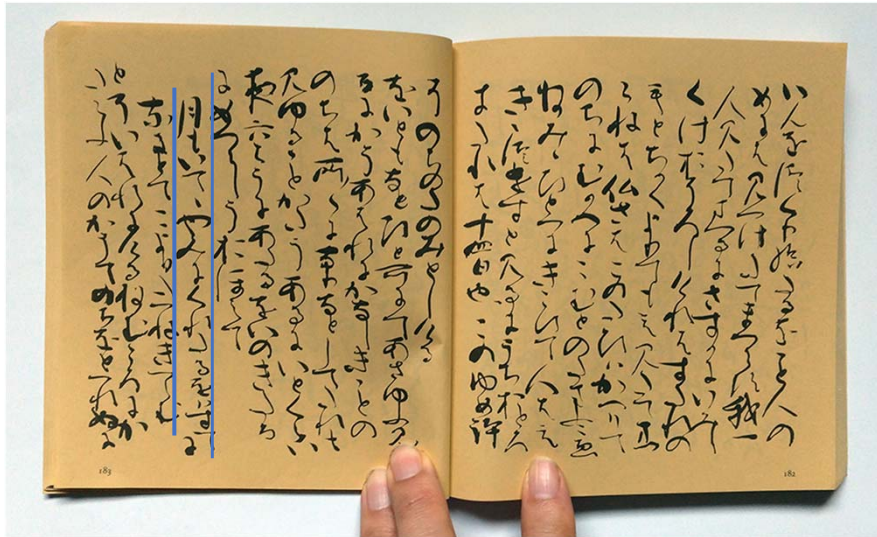
定家朝臣  
はるかなる月の都に  
ちぎりありて  
あきの夜あかす  
更級のさと



さらしなの里のことは「1行も書かれていない。更級の二文字も出てこない

それなのになぜタイトルが「更級日記」なのか？

「更級日記」のタイトルの根拠の和歌  
月も出でて闇にくれたる姨捨に  
なにとて今宵訪ねきつらむ



### 3、京都御所の天皇の 住まいにある「更科の里」







清涼殿のふすまに描かれた「更科の里」

おぼすてのやまぞしぐれる風見えて  
そよさらしなの里のたかむら

歌〓飛鳥井雅典。幕府が政策を実行する際の許可を  
天皇からもらうための取り次ぎをする「武家伝奏」  
画〓土佐光清。大和絵の名門の子孫

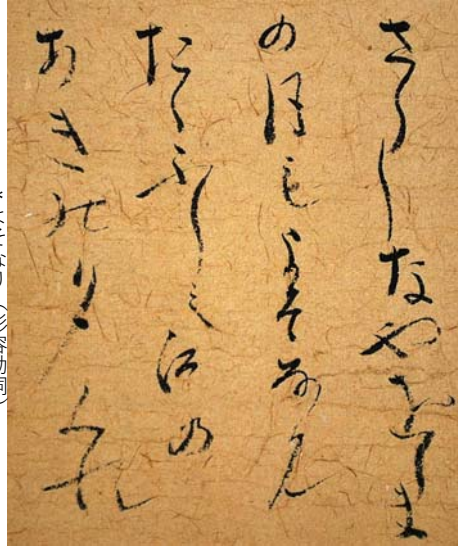


萩戸 右手前の襖に「更科の里」

京都御所を特集した毎日グラフ別冊  
(毎日新聞社発行、1984年)



### 3、秀吉がライバル視した「さらしなの月」



さらしなやをしま  
の月もよそならん  
ただふしミ江乃  
あき能夕ぐ礼

さらしなや雄島の月もよそならん  
ただ伏見江の秋の夕暮れ



\*よそなり(形容動詞)  
①無縁だ。無関係だ②遠く離れている



巨椋池(おぐらいけ) 現在の京都市伏見区・宇治市・久御山町にまたがる場所にかつて存在した池。伏見城築城期の築堤をはじめとする土木工事などにより時代によって姿を変え、1933年(昭和8年)から1941年(昭和16年)にかけて行われた干拓事業によって農地に姿を変えた。干拓前の巨椋池は周囲約16 顷、水域面積約8 平方 顷。現在の諏訪湖の水域が13 平方 顷なので、3分の2の大きさ

巨椋池の重要性



伏見城の鳥瞰・復元イラスト  
 「日本の城」 (香川元太郎著、2018年、学研プラス発行)

伊達政宗のさらしなの和歌

曇るとも  
 照るとも同じ  
 秋の夜の  
 其の名は四方に  
 さらに  
 さらしなの月

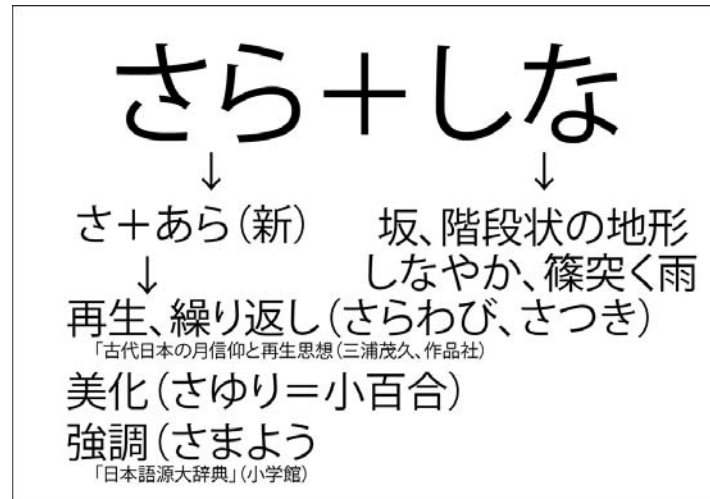


父輝宗(てるむね)の菩提寺として  
 建立した覚範寺(かくはんじ、仙台  
 市青葉区)で嘉永2年(1625)、  
 「名所月」をテーマに詠む。辞世の  
 歌の約10年前、58歳ごろ

曇りなき心の月を先立てて

浮世の闇を照らしてぞゆく(辞世)

## 4, 「さらしな」が都人のあこがれになった理由



- ・ すがすがしさと躍動感  
「さらしな」の S 音と R 音の融合
- ・ すがすがしくなりたい人の  
身近で手軽なツール  
= 和歌、俳句、短歌

**わが心慰めかねつさらしなや  
 姨捨山にてる月を見て**

人の活力（精神的）の根源は**すがすがしさと躍動感**  
唱えれば手に入れられる地名**さらしな**

月のみか露霜しぐれ雪までに  
さらしさらせるさらしなの里  
(佐良志奈神社社標の和歌)



ご清聴ありがとうございました